

# 平成21年教育委員会第7回臨時会会議録

開会日時 平成21年7月29日 午前 8時00分

閉会日時 同 上 午後 5時30分

場 所 保田しおさい学校ほか

出席委員 委員長 松本 實  
同職務代理 遠藤 勝男  
委員 佐藤 昭  
委員 面田 博子  
委員 秋本 則子  
教育長 山崎 喜久雄

## 議場出席委員

・教育次長	内山 利之	・教育振興担当部長	吉田 義仁
・庶務課長	深井 祐子	・教育計画推進担当課長	木佐森 茂
・施設課長	齋藤 登	・学務課長	土肥 直人
・指導室長	平沢 安正	・統括指導主事	江田 真朗
・保田しおさい学校長	宇田川 嘉一		

## 書記

・企画係長 平井 大介

開会宣言 委員長 松本 實 午前 8時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 松本 實 委員 遠藤 勝男 委員 山崎 喜久雄  
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開始時刻 8 時 0 0 分

委員長 ただ今から、平成 21 年教育委員会第 7 回臨時会を開会いたします。  
これから、保田しおさい学校及び岩井臨海学校の視察に向かいます。

(保田しおさい学校に到着)

(保田しおさい学校の会議室において)

委員長 それでは、会議を再開します。

本日は、請願・陳情・議案はございません。

報告事項等に移ります。

報告事項等 1「保田しおさい学校の概要について」、保田しおさい学校長、ご説明をお願いします。

保田しおさい学校長 改めまして、こんにちは。校長を務めております宇田川嘉一と申します。日ごろより、本校の教育に関し多大なるご支援をいただき、本当にありがとうございます。本日、このような席に私どもが参加させていただくということが大変光栄に思っております。どうぞよろしく願いいたします。

私どものほうで用意させていただいたものは、「学校要覧」1部と、中に折り込みました概要についての A 4 縦 1 枚のもの、それから、「葛飾区教育振興ビジョンへの取組」というタイトルの A 4 裏表の印刷物、計 3 種類をご用意させていただきました。

まず、ここ最近の学校の様子ですけれども、既に皆様ご存じのように、平成 19 年度に入りまして校名変更について検討会が立ち上がりました。翌平成 21 年 4 月 1 日をもちまして校名が「葛飾区立保田しおさい学校」に変更となりました。同年、耐震工事及び寄宿舎の全面改修工事をしていただくことになり、その間、隣の岩井町にあります渋谷区の施設のほうに学校ごと 4 カ月ほど移転しまして、教育活動を継続いたしました。11 月の末に創立 40 周年の記念式典をここ鋸南町の中央公民館で開催させていただきました。このように、校舎内外を問わず、教育環境の整備にご尽力いただき、職員一同、本当に感謝しているところでございます。

と同時に、中身の問題をどうしたらいいのか、教育活動の充実をどのように図ったらよいかということが学校の経営上の課題となりました。多くの職員と意見を交わしながら、平成 21 年度につきまして、葛飾区教育委員会より研究指定校を受けたらどうだろうかという声も職員の中から上がり、申請させていただいたところ、このたび承認させていただき、平成 21 年度の研究をスタートさせていただいたわけでございます。

このような教育環境の整備とともに、本年度につきましては、引き続き、洗面所、トイレ、浴室等の水回り関係の工事をしていただいているところでございます。聞くところによりますと、来年度につきましてはまだ未定だということですが、屋上の防水工事なども考えていらっしゃると聞いております。

それでは、私のほうから本校の概要の説明ということですが、既に委員の先生方、事務局の先生方は本校に長らくかかわっていらっしゃる方ばかりですので、本校の施設面等については後ほど改修した新しい姿を見ていただくということでかえさせていただければと思っております。私から、施設面のほかに、先ほど申しました内容面ということについて若干お話しさせていただきますと思っております。

A 4の縦1枚の資料を見ていただければと思います。まず、本年度の児童数ですが、5月1日の調査の時点では23名です。その後1名入校しまして、今日時点では24名となっております。内訳につきましては資料を見ていただければと思います。病類別人数は、ぜんそくが6名、肥満が7名、虚弱が7名、その他4名ということになります。その他の中には心身症等が入っております。そして、職員につきましては、下に書かれておりますように、非常勤職員等々を含めまして、私も含めると40名の職員で子どもたちの教育にかかわっております。

職員構成に関して特に大きく変わったことにつきましては、区職の調理主事ですが、2名退職し、その後、嘱託を希望しなかったために、3月の末に面接と実技を通して新たに専門非常勤職員4名を採用いたしました。ですから、調理に関しては8名が交代制で勤務しております。また、看護師の件ですが、一昨年度、専門非常勤1名というようにしていただき、あとは臨時の職員を含めて2名で交代制で看護しているところでございます。

それでは、「教育振興ビジョンへの取組」ということで若干お話しさせていただきたいと思っておりますので、資料をごらんください。

まず、本校は、ご存じのように病弱・虚弱の区立の特別支援学校であります。全寮制ということもありまして、私どもは、心と体の健康づくりについては、区内校のセンター的な役割を担うべきではないかと考えているところです。特に教育振興ビジョン（第2次）では、大きな柱の中に、健やかな体の成長が立てられました。このことにつきましても、葛飾区の教育課題として児童・生徒・幼児を含めた健康教育がいかに大事かということを改めて私どもは感じたわけです。

そのことにつきまして、具体的にどのように取り組んだらいいか。先ほど申しましたように、区の研究指定校を受けたということもあります。その中身は、病・虚弱の特別支援学校として自立活動をどのように指導していったらいいのか、このことにつきまして研究課題として挙げさせていただいております。

と同時に、教育振興ビジョンの四つの大きな柱につきまして、保田はどのように取り組んでいるのか、改めて職員とともに議論を重ねて、このような取り組みを今始めたところでございます。

まず初めに、「確かな学力の定着」につきましては、学力向上への取り組みとして私どもは待ったなしの危機感を抱いております。というのは、生活規制の中で基本的な生活習慣ができて

いる学校であり、しかも、「早寝・早起き、朝ごはん」ではないですけれども、生活のリズムが整っている。さらに、少人数である。このような恵まれた環境であって、なぜ子どもたちの学力がいまだに十分定着できていないのか。改めてこのことは我々教職に携わる者として真摯に受け止めなければならないと考えております。

そこで、具体的な方策としては、7月に授業改善プランをつくりましたが、それを着々と進めるとともに、私たち教職員の研修をより密に行うべきだと考え、月3回以上の授業研究会、これは金曜日の6時間目に設定していますが、そのような研修会を1学期やってきました。

続きまして、読書活動につきましては、少しずつではありますが、子どもたちの読書冊数がふえています。と同時に、単に本を読み、読めと言うだけでなく、地域の読書ボランティアグループがありますので、そちらの方々のお力添えをいただきまして、月1回から2回、読み聞かせのグループさんと大型紙芝居のグループさんが本校に入っております。

それから、3番目、情報教育ですけれども、おかげさまでコンピュータはすべて新しくしていただきました。これをどうやって活用したらいいのかということを我々は真剣に考えなければいけないと同時に、情報モラルに関する教育について、具体的に言えば、携帯電話・メール等、今は、子どもたちがこの学校にいる間は使っておりませんが、区内に戻ったときに、ふだん使わないものですから、どのように使ったらいいのか、そのあたりの指導がまだまだ不足しているというふうに考えております。ですから、情報モラルに関する指導も含めて、改めて指導計画を考えていきたいと考えております。

次に、裏になりますが、「豊かな心の育成」につきましては、道徳の時間の指導はもちろんのことですけれども、特に地域の方々との連携ということで、この鋸南町の方々、または南房総市の方々との関係をどのようにつくっていったらよいかということを考えております。ここでは、地域のお祭りですとか、絵画コンクールといったものについて参加しようと考えております。と同時に、地域の老人会のほうから、「子どもたちの踊りを見せてもらえないだろうか」というリクエストがあります。できる限り、教育活動に支障のない範囲でこのような活動に参加させていただいております。おかげさまで、本年6月に青少年育成鋸南町町民会議様より、学校として善行表彰を受けさせていただきました。

続きまして、として、「健やかな体の成長」ですが、先ほど申しましたように、健康教育に関しては、保田しおさい学校は区内校のセンター的な機能を持つべきだと私もは考えております。具体的に申しますと、例えば肥満症のお子さんについてはどのような指導をしたらいいのか、乾布摩擦はどうしたらいいのか、このようなことについて、我々は事例をたくさん持っておりますので、区内校のリクエストにどんどん応えられるような機能も大事にしていったらよいと考えております。あわせて、研究の中身にかかわりますが、自立活動を中心とした個別の指導計画の作成について、この休業中も取り組んでいるところでございます。

最後になりましたが、「良好な教育環境の整備」につきましては、まず、特色ある学校づくりの推進ということで、もし後ほどお時間があれば、学校の畑なども見ていただければと思っております。自然とのかかわりをどのように持ったらよいのか。あわせて、食育の推進ということもあります。子どもたちが自分たちでつくったものを自分たちで食する、そのためには多くの方々がかかわっているのだ、自然の恵みなのだということを実感できるような体験的な活動を重視したいと思っております。これにつきましては、また8月にヒアリングがあるというふうに聞いておりますので、またご説明させていただければと思っております。

最後になりますが、学校公開の充実ということで、現地では、道徳地区公開講座、授業参観等をしてありますが、校舎もきれいになりました、寄宿舎も整備されました、新しい教育活動についても挑戦しているこの学校の姿を見ていただけないかということで、葛飾区内で学校公開の場を今回持つことにいたしました。期日は本年の11月23日勤労感謝の日ですけれども、清和小学校のご協力をいただき、体育館で、午後、本校の子どもたちの様子、施設面等々を視聴覚資料をもとにご説明し、記念講演も考えているところです。このように、教育委員会の多大なるご支援のもと、我々は、この学校の役割は一体どういうものなのか考えつつ少しずつ進めていますが、まだまだ未熟な点が多々ありますので、今後ともご指導いただきながら進めさせていただければと思っております。

雑ばくな説明で大変恐縮ですが、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

委員長 ありがとうございます。

それでは、ここで一旦会議を中断いたしまして、保田しおさい学校の視察を行いたいと思えます。

(保田しおさい学校視察)

委員長 それでは、会議を再開します。

ただいまの視察を踏まえて、何かご質問等はございませんか。

遠藤委員。

遠藤委員 きょうは、視察をさせていただきまして、詳しいご説明がありまして、大変ありがとうございました。校長先生からのご説明、それから校内を案内していただきましてわかりましたことは、私も二十数年前に文教委員として初めて視察させていただいて以来、何回か拝見いたしましたが、それ以来、年々発展しまして、きょうのご説明で、この発展ぶりがよくわかったような気がいたします。ここまで来られるには、校長先生を初め、教職員の皆さん、そしてPTAの皆さん、それから、こちら鋸南町の地域の皆さんのさまざまなご協力があったればこそ、今日まで来られたのではないかと思います。

ご質問しますのは、校長先生が先ほどおっしゃっていましたが、区内の小・中学校のいわばセンター的な役割を担っているという自負もありまして、そのセンター的な役割、先ほど校

長先生がおっしゃったほかに、何かセンター的な役割として自負されるようなものがありましたら、教えていただければというふうに思います。

委員長 保田しおさい学校長。

保田しおさい学校長 ご質問ありがとうございます。センター校としての機能ということにつきましては、先ほどの健康教育に関する具体的な指導の手だてを各学校の先生方が気楽に本校に尋ねられる、まずそこから始めたいと思っております。ただ、あくまでも学校だけでは進められませんので、区内の小・中学校の関係の先生方や小・中校長会等のご協力を得なければ進められないものだと考えております。現在のところは、まだ着手したというところで、さらにご指導、ご助言いただいて、充実させていきたいと考えております。

委員長 遠藤委員。

遠藤委員 今、大変すばらしいセンター的な役割としてのお話がありましたが、私は、正面玄関を入りましての大きなパネルを見ました。子どもたちが、そして教職員の皆さんも一緒に参加されている、こちらでやっております「あわ夢まつり」に参加されているというのは、区内でも、これからいろいろと勉強していかなければならないことではないかなというふうに思いました。この「あわ夢まつり」に対する本校としての取り組みはどのような経過で、またどのようなご苦労があるかということをお話いただければ幸いです。

委員長 保田しおさい学校長。

保田しおさい学校長 「あわ夢まつり」につきましては、南房総市の教育関係者の方々、主に福祉関係の方々が発案されたと聞いております。館山にあります南房文化センターという大きなホールなのですが、そこに各団体さんが集まって、例えば盲導犬の指導のグループですとか、人形劇のグループですとか、そういった方々が活動を披露するということが発端だったと思っております。本校のかかわりは、「あわ夢まつり」の実行委員をなさっている方と本校の職員の個人的なつながりから「参加してはいかがですか」というお声をいただいて、ささやかながら少しずつかかわりを持ったということが十数年前から続いているということなのです。

現在の教育課程上の位置づけとしては、葛飾区の行事に十分参加できないものですから、房総を第二のふるさとの地域として考えて、そちらの方々とのふれあい、交流を大事にしているところです。内容につきましては、「自立活動」という本校の教育の大きな柱があります。その中で、子どもたちが体を動かし、ほかの子どもたちと協働し、自分の健康回復とともに心を強くする、そういう活動として今踊りなども取り組んでおりますけれども、それを披露するというふうに考えております。大きな位置づけだと思っております。

委員長 遠藤委員。

遠藤委員 ありがとうございます。子どもたちのパネルを見る限りは、みんな生き生きとしておりますので、ありがとうございました。

委員長 ほかにございませんか。

佐藤委員。

佐藤委員 本日はどうもありがとうございました。私は、3年前に一度来て、今回で二度目なのですが、来るたびに思うのは、関係各位の皆さんが大変だな、努力がたくさんあるのではないかといつも感謝しておるところでございます。

先ほど、1日の生活のうちのテレビの問題がちょっとご説明あったのですが、普通の一般家庭ですと、テレビを遅くまで見たり、あるいはゲームとか、そういうもののお母さん方の苦労は大変なのですね。その辺、決められた時間でかなりいいなと思ったのです。また、そういうテレビもそんなに見ないというお話で、読書などもしておるということで感心したところなのですが、一つ、こちらの「確かな学力の定着」のところの読書のところがありますね。読書のところは、先ほどの説明のときに、4年生も6年生も区の平均よりも大幅にいいのに、5年生がやけに少ないのですね。これは何か理由があるのか。人数的に5年生が少なくて、たまたま本の好きな子がいないのかなと思ったら、人数的には8人いらっしゃるのですね。

それから、今回ってみて、各部屋、教室に本があって、その本を読むわけですよ。あとは自分でどこかから持ってくるのですね。普通の学校と比べて、本の量というか、それは多いのか少ないのか、その2点をお聞きしたいと思います。

委員長 保田しおさい学校長。

保田しおさい学校長 まず第1点目ですが、子どもによっては、読書習慣というのは大きな差があると思います。子どもたちの今までの読書経験というものがどのようなものかということも十分配慮しつつ、ただ「読め、読め」と言うだけでなく、例えば読み聞かせを入れてみたり、こちらから推薦をして、「こういう本があるよ」というふうに薦めることもありますが、やはり個に応じて我々が指導していかなければいけないということを痛切に感じております。

第2点目の子どもの読書環境なのですけれども、各教室にある本と同時に、先ほどの2階の談話室の後ろのほうが図書コーナーになっております。区から配当いただいている予算で児童図書担当の者が選んで購入しているというところでございます。

佐藤委員 足りているということですね。ありがとうございました。

委員長 ほかにございませんか。

面田委員。

面田委員 きょうはありがとうございました。昨年、まだ改修されていないときに寄らせていただいたことを思い出しまして、あのときから比べますと、とても明るくて、清潔で、気持ちいい環境になったなということを感じました。地域ととても連携をとられて、教育活動にそれを生かしていらっしゃるということは、私はすばらしいことだなと思いながら先ほどお話を聞きました。保田しおさい学校というのは、心と体の健康づくりということが特色というか使

命として、そういう部分がすごくあると思うのですけれども、そこで、区内の学校にはない行事をたくさんなさっておられる。そして、それも意図的に計画的になさっておられると思うのですけれども、何かその中で、子どもの心や体の健康がこういうふうに変容したというような事例があれば、具体的にお聞きしたいと思います、いかがでしょうか。

委員長 保田しおさい学校長。

保田しおさい学校長 この地区を大六区と申します。区内で言いますと、町会と同じような形なのですね。昨年度、この大六区の区長さんがお見えになって、「子どもたちの踊りを見ると元気が出るから、老人会のサークルがあるので、大六区が幹事地区になってやらなければならないのだけれども、どうか来てもらえないだろうか」というお申し出がありました。急な話だったのですけれども、6年生に「どうだろうか」と。子どもたちも、「踊るのは大丈夫だよ」などという話もありましたものですから、コミュニティ会館のほうに参りました。そうしますと、この地区の鋸南町の高齢者の方々はいつもお元気なのですけれども、本当に涙ぐんでいらっしゃるのですね。子どもたちが踊っている姿を見ることでとても元気になられたと。

この地区でも、実は学校が一つ統廃合がありまして、小学校は二つしかないのですね。勝山小学校さんと保田小学校さん、それから中学校さんが一つ。ですから、町長もおっしゃっていますが、「保田も鋸南町の子どもだよ」という位置づけをしていただいているのですね。そういうことから、本当に地道な活動なのですけれども、地域の読書ボランティアの方も来ていただいて、ささやかながら、ここはマラソンコースなのですから、散歩とかマラソンをするときに、地域の農家の方々にも声をかけていただいたり、そういうことが目に見えています。大きなことというよりも、そういった地道なことだと思います。

あわせて、この8月に、鋸南町の教育長先生から、保田の校長、副校長、職員も、地域の学校の校長先生方と交流会を持とうということで、8月25日、鋸南町の教職員の研修会に本校教職員が参加するということが実現できました。ちょうどこの町が福祉教育の推進地区になっておりますので、そういった面で、中学生の職場体験も受け入れる準備をしております。ですから、行事と同時に、ここに勤めている教職員も交流を進めていければなというふうに考えているところです。

委員長 秋本委員。

秋本委員 私も、8年前にPTAでこの保田しおさい学校への視察、研修会がありまして訪れたことがあるのですが、そのころからすると、大変にすばらしい明るい校舎及び寄宿舍、教室もきれいになり、住みやすい、過ごしやすいというふうに感じました。まさに心と体の健康づくりに大変適したところだと思います。この恵まれた環境の中であると思いますが、先ほど宇田川校長先生から「待ったなしの危機感を抱いている。恵まれた環境の中であって、月3回の授業研究会を始めている」というお話がございましたが、その成果としてはどのようなこと



を望んでおられますでしょうか。そして、その成果も見られたのでしょうか。ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

委員長 保田しおさい学校長。

保田しおさい学校長 私ども、今24人の子どもたちをあずかっていますけれども、一人ひとりの子どもたちに心と体の健康づくりと同時に、いずれは区内に戻りますので、前籍校に戻ったり中学に進学するわけですから、区内の大きな集団の中でもやっていけるようにしなければいけない。その一つがやはり勉強面だと思うのですね。勉強が苦手だと、勉強といってもいろいろあるかと思いますが、その苦手意識を少しでもなくしてここを巣立っていかせたいと思っているのです。そういった意味で、学力の定着には差がありますが、それはどの学校でも同じだと思いますので、一人ひとりに応じた、その子に合った指導をさらにさらに充実させなければいけないというふうに考えております。

「成果は見えましたか」というご質問ですが、著しい成果は見えなくても日々成長している職員が言っておりますので、いずれ大きな花が咲くと思っております。

委員長 ほかにございませんか。

教育長。

教育長 耐震補強工事とリニューアルをあわせて行い、新しくなったことによって子どもたちがどのような印象を持ったのでしょうか。あるいは施設見学会も7月にやっているかと思うのですが、そういった見学会などでの保護者の方々の評価がもしあれば聞かせてもらいたいと思います。

保田しおさい学校長 子どもたちにつきましては、やはり「ゆったりとした」ということを大きい学年の子たちは口々に言っています。と同時に、プライベートな空間も必要ですので、周りをカーテンで囲っていただいたり、ベッドサイドにちょっとした小物を置ける棚があります。そういったきめ細かなデザインというのでしょうか、設計というのでしょうか、それについては子どもたちは喜んでおります。と同時に、それがいつの間には当たり前になってしまったと。なれてしまったというところも今ありますね。それは確かにあります。

それから、保護者の方々ですけれども、以前の施設を知っている方は、「大変明るくなって子どもたちの居住空間としてよくなっている」という評価を受けております。それぞれのご自宅を家庭訪問したわけではありませんので、状況はわかりませんが、快適な居住空間になっていると考えております。

委員長 教育長。

教育長 もう一つ。

先ほど鋸南町から青少年の善行表彰を受けたと言われましたが、何を評価されて善行表彰を受けたのかということと、もしその内容がよければ、ぜひ「かつしかのきょういく」などでP

Rして葛飾の子どもたちに、「保田はこんなふうに頑張っていますよ」ということを示していったほうがいいと思いますので、どんな内容が教えてください。

保田しおさい学校長 表彰の理由につきましては、直接的には子どもたちの表現活動、具体的に言えば踊りなどの演技ということなのですね。ただ、その位置づけはあくまでも自立活動の一環ですということは会議のほうには申し添えていますけれども、町の文化祭とか、向こうのダムのほうに「桜まつり」というのがあるのですけれども、そういったところでも披露していますので、「子どもたちが一生懸命に踊っている姿に大変感動した」というお声をいただいて受賞したわけです。その演技につきましては、4月末の「こどもまつり」、3月の新小岩地区の「桜まつり」、それから小P連のバレーボール大会の開会式などで披露させていただいております。

遠藤委員 これですね。「こどもまつり」で。

保田しおさい学校長 さようございます。

委員長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

委員長 最後に、委員長の私からです。校長会でここに来ましたし、この前の卒業式にも来させていただきました。先ほどから出ているように、施設とか、そういう面が改善されてよくなっているというのを本当に肌で感じました。

2点あるのですけれども、この保田しおさい学校に子どもがピークでいた時期は何名ぐらいいたのかなというのが一つ。もう一つは、現場の中学校の校長をしていましたので、保田から帰ってくる子どもたちが一気に40人学級の大きな学校に帰ってきたとき、なかなか適応が難しいので、6年生の後半になりましたら、中学校に進んだ時にスムーズに入れるような取組を、先ほど「努力する」とおっしゃいましたけれども、考えていただけたらなと思います。

その一つに、せっかく1校の中学校がここにあるということなので、そこを活用されたいのかなということと、今この中学校と何か交流されているかどうか、お聞きしたいと思います。

保田しおさい学校長、お願いします。

保田しおさい学校長 ピーク在籍児童数ですけれども、昭和46年頃、在籍数が約80名の時がありました。平成13・14年頃、本校のあり方検討委員会の後、心身症の児童が入って、そののちは、卒業時に40名前後となっております。

2点目の中学校への進学につきましては、大きく二つのことを今考えています。一つは、中学校の先生方に保田の教育活動について知っていただくように我々が出向くということなのですね。進学する中学校が2月から3月にかけて決まりますので、昨年度は私と6年の担任が全進学中学校に出向きました。それで、子どもの様子、学校の様子についてお話しさせていただ

きました。それをさらに計画的に進めたいと思っております。

子どもにつきましては、やはり中学校という大きな環境の変化について、違和感というのでしょうか、抵抗があるかと思っておりますので、立石中学校さんのご協力をいただいて、例年11月に体験入学させていただいているのです。昨年は理科の授業や英語の授業、数学の授業、クラブ活動参加などをさせてもらっています。本年度、立石中学に進学する予定の子はいないのですが、周年行事が終わった後にでもお力添えいただければと思っています。また、別の中学校さんにもご協力いただければというふうに考えているところです。

向かいの鋸南中学校さんとのかわりですが、大きな行事に関しては、いわゆるおつき合いという形で参加させていただいております。先ほど申したように、鋸南中学校さんの2年生の職場体験の一つの受け入れ先として本校は手を挙げております。ただ、日程的になかなか合わないということもあります。先ほど委員長先生からお話があったように、中学の授業に参加できないだろうか、これも一つの糸口ではないかと思ひまして、今度8月に会ったときにぜひお願いしてはいかがでしょうかと思っています。

委員長 では、よろしいですか。

それでは、続きまして、報告事項等2、「平成21年度『教育委員会の権限に属する事務の管理・執行状況の点検及び評価』について」、庶務課長、ご説明をお願いします。

庶務課長 それでは、報告事項等の第2番目でございます。「教育委員会の権限に属する事務の管理・執行状況の点検及び評価」について取りまとめいたしましたので、ご報告するものでございます。

資料の「1 目的」、「2 実施内容」のところでございますが、ここにつきましては、6月25日の教育委員会において点検・評価の実施についてご報告したとおりでございますが、学識経験者を有する者の意見を聴取した上で、教育委員会が自己点検及び評価を実施し、その結果を区議会に報告するとともに、区民に公表するというやり方でございます。平成20年度に執行した事業の取り組み状況は、別紙1にまとめた中身でございますので、これについては後ほどお目通しをいただければと思います。

「3 学識経験者」でございます。お二方をお願いいたしました。お1人は板倉東雄氏でございます。現在、人権擁護委員をやっていらっしゃいます。また、元葛飾区立中学校の校長先生を経験されてございます。また、もう一方につきましては、佐藤一子さん、法政大学のキャリアデザイン学部教授ということでございます。7月6日にこのお2人の学識経験者へ20年度の施策及び事務事業の取り組み状況をご説明する場を設け、また、ご意見等を伺ったという形でございます。学識経験者の意見は別紙2のとおりでございますので、簡単にご説明を差し上げたいと思います。

別紙2をごらんいただきたいと思います。まず、板倉東雄先生からのご意見の概要でござい

ます。学校教育の分野を比較的中心にご意見いただいたところでございますが、まず、本区の教育振興ビジョンに基づく施策の進め方につきましては、施策の一貫性ということについてご評価をいただいているところでございます。そして、こういった進め方について、わかりやすく、行動しやすく、一体化しやすいというメリットがあり、今後ともこういった教育全体の進め方を継続するとともに、さらなる深化を図っていただきたいというご意見をいただいたところでございます。

学校教育の施策のうち、「確かな学力の定着」の部分につきましては、学力というものを、思考力、判断力、表現力等の実践的諸能力、また、学習意欲、学習習慣をも含め、より幅広く定義していることは、生きる力を培うという現在の教育の目標から考えて、大変適切であると考えているという評価をいただいております。そして、総合的な人を育てるという見地で進めている本区教育委員会の施策の方向性についても大変よいという評価をいただいているところでございました。

「豊かな心の育成」についてでございますけれども、「早寝・早起き、朝ごはん運動」への取組について、保護者への啓発という観点から役立っているという評価をいただいたところでございます。

また、「葛飾区歌」でございます。これを奨励していることは大変素晴らしいということでございます。今後も引き続き続けてほしいというご意見でございました。

また、教育全般につきましては、学校だけでは完結しないというご観点から、中学校の職場体験、あるいはわくチャレといったものを、地域とさまざまな連携をしながらの条件整備は大変だというご認識もいただいているところでございますが、よりよい施策なのでさらに充実していくことを期待しますというご意見をいただきました。

また、図書館、あるいは郷土と天文の博物館等の施設の活用という観点からも、20年度の施策としては、機能を充実させる努力が見られるので、大変心強く思いますというご意見をいただいたところでございます。

次に、佐藤一子先生からのご意見、主に生涯学習分野についてのご意見をいただいたところでございます。特に佐藤先生からは、20年度の作業として、新たに「葛飾区生涯学習振興ビジョン」を策定したことについて、今後5年間にわたって計画的に進めていくというこの取組についてまず評価をいただいたこと、また、そういったビジョンの策定のみにとどまらず、20年度中に策定をした振興ビジョンに取り込んでいくための体制として組織編成を行い、21年度からの新規事業等を推進していく準備が開始されており、全庁的な理解を得ながら第一歩を踏み出されていることを評価し、今後に期待したいというご意見をいただきました。

また、策定した生涯学習振興ビジョンに示されました「区民大学」、あるいは「わがまち楽習会」「学校地域応援団」、こういった取組、新規事業については、21年度、今年度から進めてい

るわけですが、これらの進め方についても行政が環境整備して、機会を提供するという形から、一步進んで、行政・住民との協働という視点を持つべきというご意見をいただいたところでございます。

そうしたお考えを踏まえて、20年度までに、学び交流館、図書館、博物館、スポーツ施設など社会教育施設を中心に多彩な事業が実施されていることについて評価をいただいているところでございまして、先ほどからの先生のご意見の観点から見ても、区民参加事業として成果を上げていることについて評価できるというご意見でございます。今後さらに区民の生涯学習の参加率を高め、さまざまなボランティア活動が発展するよう、わかりやすい数値的な目標も検討していく必要があるというご意見をいただいたところでございます。

また、もう一つ、21年度に地域教育課を設置したところでございますが、この地域教育課の新設についての評価と、これから果たすべき役割への期待というものもご意見としていただいたところでございます。そういったところから、生涯学習分野において、行政、また指定管理者制度をスポーツ等でも導入しているところでございますが、区民など、さまざまな担い手の責任分担などにより、連携型、ネットワーク型ということになるかと思いますが、生涯学習システムの構築をしていくことについて期待をしているというご意見をいただいたところでございます。

それでは、一番最初のところにお戻りいただきたいと思えます。

今申し上げました学識経験者のご意見も踏まえ、教育委員会として、自己点検、自己評価をした結果を取りまとめた内容をご説明したいと思えます。

まず、学校教育の分野でございます。平成20年度は、第1次の葛飾区の教育振興ビジョンの最終年度として各分野にわたり教育施策を推進したという年度でございました。この総括的なところでございますけれども、5年間のさまざまな取り組みによりまして、葛飾区の教育は着実に前進しているという評価をしているところでございます。

まず、「確かな学力分野の定着」の分野においてでございますけれども、外部人材の積極的な配置によりまして、学力の向上のための取り組みを継続して進めるとともに、また、新規事業としても学習サポーターを配置するなど、補助授業を行って力を入れてきたところでございます。今後、学力の分野におきましては、「確かな学力の定着度調査」の結果の検証、それから、課題解決の方策の検討等をこれまで以上に行うことによりまして、授業や指導方法の改善を進めまして、確かな学力の一層の定着を図っていく必要があるというふうに認識しているところでございます。

また、「葛飾学習チャレンジ教室」につきましても、小・中学校全校で実施するというような形になっておりまして、小・中学校とも成果を上げてきているというふうに考えているところでございます。

また、特に20年度は、コンピュータ教育の充実に向けまして、先ほどもごらんいただきました全小・中学校に電子黒板を導入するというところでも実施したところでございます。あわせて、地上デジタル放送対応テレビへの入れ替えを行うなど、コンピュータ教育等に向けても環境整備をきちっとしてきたところでございます。今後の課題として、コンピュータ機器の増配置はもちろん、あと、中学校への電子黒板の設置を進めていきたいというふうに考えておりますが、やはりICTを教科指導に活用できる教員の役割を高めていくことが課題であるというふうに認識しているところでございます。

また、特別支援教育につきましても、モデル校を16校に拡大していくといった取り組みをしているとともに、20年度からは、特別支援教育の心理専門員1名を指導室に置くなど、特別支援教育の分野についても進めているというところでございます。

また、ハード面でございますが、小・中学校の耐震補強工事につきましては、20年度について全校の耐震化を完了したということで、これも評価できるものと考えているところでございます。

次の「豊かな心の育成」の分野でございますけれども、学識の方からもご評価いただきましたが、「早寝・早起き、朝ごはん食べよう」カレンダーの活用についても行い、また、中学生の職場体験でございますが、20年度から5日間の職場体験を全校で実施したところでございます。今後、この取り組みを進めていくためにも、受け入れ先の確保等が重要なことというふうに考えているところでございますので、積極的な取り組みを行っていく必要があると考えているところでございます。

また、区歌でございますけれども、すべての児童・生徒が「葛飾区歌」を歌えるよう指導を進めた結果、入学式及び卒業式では全小・中学校で斉唱したという成果を上げているところでございます。

また、一つ、不登校・学校不適応対策というところも、「豊かな心の育成」の分野の大きなテーマでございますが、スクールカウンセラーの派遣、また学習ボランティアの派遣等も引き続き行って効果を上げつつあるという認識を持っているところでございますが、今後は、経験の少ないスクールカウンセラーの資質の向上というのが一つの課題であると思っております。また、学校復帰を目指した適応指導教室におけますきめ細かな指導というものにも取り組んでいく必要があると考えているところでございます。

また、中学校の部活動につきましても、熱意ある教員、あるいは外部指導者の活用により、特に吹奏楽部、または陸上競技の分野で優秀な成績をおさめたところでございます。今後も、区教委としては外部技術指導員の配置時間の拡大、また、小学校においても音楽活動の部の設置校の拡大等を目指して充実を図ってまいりたいと考えているところでございます。

また、「新たな取組と家庭・地域社会との連携」の分野でございますが、松上小学校と新小岩

中学校におけます小中一貫教育校の開校に向けて、地域の方たちをメンバーといたしました新小岩地区の小中一貫教育推進協議会といったものを設置するとともに、両校の職員室となる管理棟の設置といった具体的な取り組みに着手し、今後進めていこうということでございます。

また、この分野での新しい、20年度の取り組みといたしましては、学校教育のモニター制度をモデル実施したということが挙げられるかと考えております。今後、こういったモデル実施をしたものにつきまして、学校評価の適切な実施、または評価結果の活用によって改善に結びつけていくという活動をしてまいりたいと思っておりますのでございます。

以上、学校教育分野におきましては、葛飾区教育振興ビジョン（第2次）でございまして、こういった施策を積極的に進めて成果を上げてきたという認識でございまして。また、こうした20年度までの取り組みを踏まえて、20年度中に葛飾区の教育振興ビジョン（第2次）を策定したというものでございまして、今後も新たなこの第2次の振興ビジョンに基づき、葛飾の教育の向上のために積極的な取り組みを進めていくところでございます。

続いて、生涯学習分野に移りたいと思っております。まず、区民の学習の機会の提供というところがあるかと思っておりますが、NPOとの協働による子どもの学校外活動推進事業といったものを新たに実施するとともに、学識経験者の方からも、「区が実施するだけではなく」というようなご意見もいただいたところでございまして、20年度、区教委といたしましても、多様な形態の事業を通じまして区民の学習を積極的に支援したところでございます。また、新たに、小・中学生の保護者を対象にした家庭教育支援講座等も実施するなどの充実も図ってきております。今後とも、区民の学習提供の分野といたしましては、区が企画する事業に加えて、区内の教育機関との連携や地域の団体が行う活動を支援する制度の充実などで取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

また、わくチャレ事業につきましては、20年度で9校で対象学年を拡大して、と同時に、学習・文化・スポーツ活動など6校で実施しているといったことも取り組んでいるところでございます。また、20年度中にも学校地域応援団についてモデル校を3校立ち上げて、今年度から、21年度からの取り組みの環境整備をしたというような取り組みもございました。

次に、図書館事業の取り組みでございまして、10月の新中央図書館の開設準備というのはもちろんでございますが、図書資料の購入、また図書館システムといったものの開発も進めてきたところでございます。

4ページに移りますが、スポーツの分野におきましては、こやのエンジョイクラブが20年9月に創立いたしましたので、地域に根ざしたスポーツ活動の環境づくりに成果を上げてきているところでございます。今後も、会員の拡大、指導者の確保といったものが課題かと認識しておりますので、こういったものに取り組んでまいりたいと考えております。また、第2号目としては、水元・西水元地域を考えているところでございまして、20年度中の設立を目指して、区民

への理解と協力を深めてまいりたいというところでございます。

また、体育施設については、18年度から指定管理者制度を導入してきたところでございますが、この検証につきましても、年末年始の開館日の拡大、あるいは区民ニーズを反映させた事業の新設などで区民サービスの向上が図られたという認識を持っているところでございます。また、体育施設の整備の面でも、陸上競技場の全天候化、あるいはテニスコートの改良などを完了して環境整備を進めてきたところでございます。

また、郷土と天文の博物館では、展示部分の一部でございますが、リニューアルをし、また、ソフト部分についてもわかりやすい展示とするというようなことを取り組みました。また、天文の展示室につきましても、最新の天文情報を反映したものにリニューアルするといった取り組みを進めました。今後も、生涯学習、あるいは教育施設として重要な位置づけでございますので、博物館につきましても幅広い層の利用を促進し、生涯学習・学校教育でのより一層の活用を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上のとおり、生涯学習分野におきましても、20年度、各分野でさまざまな取り組みにより成果を上げてきたところでございますが、20年11月に、今後のきちっとした取り組みをしていくために葛飾区生涯学習ビジョンを策定したというところでございます。また同時に、この辺は学識経験者の皆様からもご評価をいただいたところでございますが、ビジョンにおけます理念や重点施策を進め、学校教育と地域・家庭の連携を一層推進するために、生涯学習課の再編と地域教育課を新設するための準備を進め、この4月からの新たな推進体制というのを実現したところでございます。今後も、「区民と創る元気なかつしか」に向けた生涯学習分野での取り組みを積極的に進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上が20年度の教育委員会における事務事業等の点検・評価を取りまとめた内容のご報告でございます。よろしくお願申し上げます。

委員長 ただいまの説明を踏まえまして、何かご質問等がございましたら、お願いします。

面田委員。

面田委員 今報告がありました。この学識経験者による意見というのも今読ませていただきました。今この教育委員会が進めている教育の指針としている二つの振興ビジョンに対して、お二人の先生方が「とてもいい」というふうな評価をしていただいております。大変よかったというか、自信を持ってまた進めていきたいなという思いであります。今、報告の中にありました「評価・点検の結果」というところのまとめ方は、そういう点を軸にしながら、つまり、前のビジョンは学校教育の場合は三分野でやっておりましたので、それに分けて一つひとつ成果と課題を書いている。そして、生涯学習分野でもそれに沿った形でこういう形でできているということはまとめ方としてわかりやすくとてもいいなと思えました。特に数字等で何%とか、そういうようなことが書かれているのも、見た人にとっては非常に納得のできる表



現の仕方だなというふうに思いました。

今聞いた中で、私たちの進めていることに関して非常に力強い応援をいただいたということもあるのですが、生涯学習分野でも、学校教育の分野でも、両方かなり連携している部分が多いというふうに思うのです。その辺のところ、今後進めていくときにはかなり強い連携をしながら進めたほうが能率が上がるし、効果も出るのかなと。具体的には、わくチャレとか、図書館とか、郷土と天文の博物館の活用とか、今度新しくできます学校地域応援団とか、そういうようなところは、学校教育の分野でもあるし、生涯学習の分野でもあるし、そこらあたりのところを上手に、人材という言い方は失礼かもしれませんが、動いていただくと、非常に効果が上げられるかなというような思いもしました。まとめ方の中にそういった部分で書かれていると、来年またわかりやすいのかなと。そんなふうに思ったのが一つです。

それからもう一つは、例えばここに課題が何点か出ていますね。今後は、図るとか、これが課題であるとか、取り組んでいくとか、必要があるとか、そういうふうに出て、それを解決するために21年度は施策が打たれるわけですね。その施策がまた来年こういう形で評価・点検で書かれるわけですね。そういった場合は、次年度の課題であった、こう、こう、こういうことは、こういう施策を打って、こういうふうに変わったというような書き方をしたほうがわかるのかなと思うのだけれども、しないのかなとか、そこら辺、私もちょっとよくわからないのですけれども。せっかくこういうふうにして課題が出たわけですから、今後のために、こういう施策を打って、そしてこうなったというふうに来年度のところに出るとうれしいなという思いで今発言をいたしました。

非常に着実に、子どもたち、あるいは学校、そういうものを頭の中に入れながら、どういう子どもを育てたいのか、どういう学校にしたいのかとか、あるいは生涯学習に参加する区民の要望にどうこたえるのか、そういうことが非常すっきりまとめられているなという感想を持ちました。ありがとうございました。

委員長 庶務課長。

庶務課長 ご案内のとおり、この教育委員会における自己点検評価は、平成20年、昨年度からスタートするというので、ちょっと試行錯誤の中でやらせていただいたところでございます。今年度は、昨年度のものよりもより具体的な形でこういった形で書かせていただいたところでございますので、今、面田委員がご指摘になった、今年度これだけ各分野について具体的な課題なども記載させていただいた点検評価にしておりますので、今後こういったものがどういふふうで解決されたかというような視点も加えて、今後のこの自己点検評価のほうには反映させていきたいというのがまず1点でございます。課題をどう解決していくのか、今後どういふ改善に結びつけていくのかというのが、まさにこの点検・評価の趣旨の一つというふうに認識しているところでございますので、来年度以降のものについては、その辺の記述、あるいは

評価・点検のやり方についても少し工夫をしてみたいというふうに考えているところでございます。

あと、生涯学習分野と学校教育分野の連携という部分については、二つの分野に大きく分けて点検・評価を記載しているところでございます。それぞれの中で連携を図ってやってきているというところがございますので、ちょっとその辺の表現については、「教育委員会全体としてそういう取り組みをしていく」というような記述の部分がどこかの部分に入れられるか、ちょっと検討させていただきたいというふうに考えているところでございます。

面田委員 ありがとうございます。

委員長 ほかにございませんか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

委員長 私からですけれども、学識経験者の方からの意見は、よく評価されているところも、もう少しこうしたらいいということもよくわかりました。私は、昨年11月に教育振興ビジョン(第2次)と生涯学習振興ビジョンが同時に立ち上がって、この学識経験者も言われているように、車の両輪のようによく連携していくことが大事なのだろうと思います。そして、教育振興ビジョンの「健やかな体の成長」というところは新しい柱なので、今までに経験がないので、ここを進めていけたらいいなと思います。あと、地域教育課を新設しましたが、それが学校と地域と連携していくという部分が両ビジョンの推進に大きく役立って、生涯学習課と指導室と地域教育課の三課が絡まって、両輪のように力強く進んでいくことを希望いたします。

以上です。

庶務課長。

庶務課長 先ほども、生涯学習分野、学校教育分野の連携というところでちょっとお答えができなかったのですけれども、組織改正等も、そういった観点も含めて両方のビジョンを20年度に策定して21年度から取り組んでいくには、やはり両ビジョンが基本としてあるというか、計画として、ビジョンとしてまとめただけではやはり進んでまいりませんので、それを具体的に進めていくためには、教育委員会としてどういう執行体制にすべきかといった議論もした結果として、新たな組織編成とかといったものを行ってきたというところがございますので、そういったご意見も踏まえて、この20年度、こういったことをやった、課題もこういうふうにあるけれども、また今年度以降取り組んでいきたいというふうなものにこの点検・評価の本を役立ててまいりたいと考えておりますし、その辺の記述については、繰り返しになりますが、どこかで記載を入れられればというふうに考えているところでございます。

委員長 よろしいですか。では、よろしく申し上げます。

それでは、「その他」にまいります。

庶務課長、一括して説明をお願いします。

庶務課長 「その他」でございます。「資料配付」でございますが、8月行事予定表がございます。8月15、16日に、博物館プラネタリウムで、ハワイの天文台のプラネタリウムとのコラボレーションの事業を予定しておりますので、お時間があればおいでいただければというふうを考えております。

それから、二つ目でございますが、午後視察をします21年度の岩井臨海学校の「実施要綱指導資料」を資料としてお配りしてございますので、よろしくをお願いします。

それから、2番目の「出席依頼」は今回はございません。

3番目の「次回以降教育委員会予定」でございます。12月までの部分を記載させていただいているところでございますが、今回、ここで日にちだけ読み上げさせていただきたいと思えます。

まず、8月10日（月）午前10時、8月25日（火）午前10時、9月10日（木）午前10時、9月25日（金）午前10時、10月8日（木）午前10時、10月22日（木）午前10時、11月11日（水）午前10時、11月24日（火）午前10時、12月8日（火）午前10時、12月25日（金）午前10時というのが12月までの教育委員会の開催予定でございます。日程のご確認をお願い申し上げます。

以上でございます。

委員長 よろしいですか。

保田しおさい学校の会議室での議事はこれで終了します。

それでは、ここで一たん会議を中断いたしまして、昼食の休憩をとり、その後、岩井臨海学校の視察に向かいます。

（昼食後、岩井臨海学校到着）

開浜式出席・水泳指導の様子を視察

（バスにて葛飾区役所に到着）

委員長 以上で、平成21年教育委員会第7回臨時会を閉会いたします。

終了時刻 17時30分